

令和 5 年 6 月 27 日現在

機関番号：82619

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17H00908

研究課題名（和文）近世狩野派を中心とした図様継承と絵画制作システムに関する研究

研究課題名（英文）Research on the Pictorial Succession and Painting Production System Focusing on the Kano School in the Early Modern Period

研究代表者

田沢 裕賀 (TAZAWA, Hiroyoshi)

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・その他部局等・研究員

研究者番号：80216952

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 26,600,000円

研究成果の概要（和文）：東京国立博物館所蔵の約9000件の絵画模本のうち、江戸幕府奥絵師として江戸時代絵画に大きな影響を及ぼした木挽町狩野家に伝来した模本が約5000件であることを確認し、伝来模本1676件の画題、原図筆者、模写者、資料内留書、収蔵情報の調査と資料のデジタル撮影を行った。撮影図版は、「国立博物館所蔵品統合検索システム」で順次公開されている。

木挽町狩野家9代当主狩野晴川院養信が記した日記類55点を、東博研究情報アーカイブズのデジタルライブラリーに公開した。また、国立国会図書館所蔵の関連「狩野家記録」が本来これらと一括のものであったことを確認した。特集「木挽町狩野家の記録と学習」の展示を東博で開催した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

江戸時代日本絵画の主軸をなした狩野派の最有力家であった木挽町家伝来の模本を通じ、古画学習と絵画制作がどのように行われていたかが具体的に示された。

調査成果である画像を逐次公開したことで、江戸絵画の古典認識や制作規範に対する研究が促進され、多くの江戸絵画展覧会に模本を活用した研究視点がもたらされている。また、シンポジウムや書籍出版を通じて失われた東アジア絵画のアーカイブとしての模本の重要性が強く認識されるようになった。特集展示の開催やそれに合わせた一般向けパンフレットにより研究者以外の広範な人々にも江戸時代画家の絵画学習を具体的に示すことができた。

研究成果の概要（英文）：We identified that of the approximately 9,000 mohon (copies of paintings) in the Tokyo National Museum collection, approximately 5,000 were from the influential Kobikicho branch of the Kano school of painting. We studied 1,676 of these copies, investigating the creators of the copies and the originals, the notes contained within, and the ownership information. We also digitally photographed the materials, which are now being made public on ColBase. In addition, we made 55 diaries written by Kano Seisenin Osanobu, the ninth head of the Kobikicho branch, available on the Digital Research Archives of the Tokyo National Museum. We also confirmed that the Kano Family Records at the National Diet Library were originally part of this series of diaries. An exhibition titled Legacies of Learning: Archives from the Kobikicho Kano Studio was also held at the Museum.

研究分野：日本・東洋美術史

キーワード：日本・東洋美術史 東アジア絵画 狩野派 粉本 模写 教育 御用絵師

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

狩野派は、室町時代から江戸幕府の崩壊まで約 400 年にわたって画壇の中心的存在であり、多様な展開を見せる近世絵画の中でも最も重要な画派とされている。東京国立博物館(以下、東博)には約 9 千件の絵画模本が所蔵されており、その中心をなしているのが、奥絵師筆頭として江戸時代画壇の中心的存在であった木挽町狩野家に伝えられた古画の模写類であることはこれまでも知られていた。しかし、模本類は、明治以後に蜷川式胤や岡倉天心の指導のもとに制作されたものなどを合わせて主題や原本筆者別の分類整理が数度にわたって収蔵経緯を考慮せずに行われ、分割改装もなされたため、どれが木挽町狩野家に伝来した資料かその範囲は明らかではなかった。そのため、研究の際には、主題や画派の視点からの研究に限られ、江戸時代の絵画制作や狩野派、御用絵師といった木挽町狩野家という組織で制作管理され伝来した模本ならではの特質を生かした研究は、限定的なものにならざるをえなかった。近年、模本類を視野に入れた研究が進み、模本を展示した展覧会もしばしば開催され、模本研究に対する関心は高まりを見せている。その中でも最重要資料である東博所蔵の木挽町狩野家伝来模本の調査目録化と画像公開、データベース構築に対する要請が高まっている。

2. 研究の目的

東博に所蔵される約 9000 件の絵画模本のうち、どれが木挽町狩野家に伝来した資料か、その範囲を明らかにすることで、単なる模本としての価値だけでなく、江戸時代の絵画に対する価値観や絵画の制作や学習、流派性を通して社会制度との関係を明らかにするなど多様な研究を生み出すことのできるまとまった資料群としての価値を新たに付与することを目指す。それにより、江戸時代狩野派の絵画制作がどのように行われていたのか実態を明らかにし、絵画制作が江戸幕府による文化政策とどのように結びつき、文化的価値を創出していたのかを明らかにする。

また、木挽町狩野家に伝えられた古画の模写類が、日本や中国など東アジア絵画の貴重なアーカイヴとして活用可能なことを示し、国内外に画像と作品情報を公開して共有化を図るとともに、江戸時代の絵画制作における古画学習や写生による新しい図様の創出、鑑定などを通じての作品評価の実例を抽出し、画像公開にとどまらないデータベース構築への情報整理を行い、近世日本の絵画制作がどのように行われていたか、図様継承と絵画制作システムを総合的に明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 東博所蔵模本の中から、木挽町狩野家に伝来した模本がどれであることを、東博の購入記録、台帳調査、収蔵時期と収蔵経緯、所蔵品整理記録などの博物館史資料をもとに整理検討を行い、東博収蔵以前の所蔵者を明らかにするとともに、模本筆者(模写者)が木挽町狩野家とどのような関わりにあるか、模本筆者側から、木挽町狩野家の一門としての制作が行われている等の情報を加えて木挽町狩野家伝来模本に該当する資料を抽出する。

(2) 上記(1)によって、本研究に該当する狩野派によって制作された模本の抽出作業を進め、「狩野派伝来目録原稿」を参照しつつ、画題、原本筆者、模写者、制作時期、原本の伝来等、研究に必要な項目に関する調査と撮影を行うとともに、データベース化のための法量の計測、留書など模本類に記載された文字の翻刻作業を行う。

(3) 上記(2)によるデータを分担者と共有し、全体での研究会において各研究分担の立場から選定した模本資料を実際に調査しながら意見交換を行う。分担者は、それぞれ幕府の権威を表象する絵画制作を行った御用絵師の仕事に関する研究を進めながら、調査した模本からの知見に基づいた研究を行い全体的考察にフィードバックさせていく。

4. 研究成果

(1) これまで注目されていなかった「狩野派伝来目録原稿」、「畫圖目録草」、「商工会社方買上粉本目録」などを見出し、これらが木挽町狩野家模本に関するもので、画題分類等の資料となることを確認した。模本資料との照合を進め本研究該当作品選定の指針を確認し、約 5000 点を木挽町狩野家伝来資料として考察すべきものとして抽出した。

(2) 第 1 回研究会(2017 年 8 月 22・23 日)を開催し、上記の指針をもとに、将来データベースを構築するための基本方針が作られた。第 2 回研究会(2017 年 11 月 24 日)では、狩野派制作の模本を含む静岡県立美術館「美しき庭園画の世界」を企画した担当学芸員を交え、実景写生と模本制作に関する新知見を得ることができた。

新型コロナウイルス感染対策により、対面での全体研究会開催は困難となったが、2021 年 1 月と 3 月の 2 回、狩野養信の日記類に関しての調査ならびに翻刻の成果を発表する研究会をオンラインにより開催し、研究分担者の他に狩野派絵画研究者多数が参加して活発な意見交換が行われた。

(3)(1)のデータベースを構築するための基本指針に沿って、画題、原図筆者、模写者、制作時期、原本の伝来等、研究に必要な項目を記録する調査と撮影を行うとともに、データベース化のための法量の計測、留書など模本類に記載された文字の翻刻作業を行った。

(4)狩野山楽筆の四天王寺絵堂聖徳太子絵伝 16面の調査並びに高精細撮影(2017年12月11・12日)を行った。

(5)イタリア所在の江戸時代絵画調査(2019年2月28日から3月10日)を行い、ヴェネツィア東洋美術館で、エンリコ・カルロ・ディ・ボルボネ(バルディ伯)旧蔵作品調査、ブレーシア市博物館で駐日イタリア公使アレッサンドロ・フェ・ドスティアーニ旧蔵作品調査を行い、写真撮影を行うとともに、同館に関連作品に関する情報の提供を行った。ヴェネツィア東洋美術館の収蔵品には、コレクターの武將趣味が反映しており、武者絵が多く含まれていた。これまで未公開であった作品を含む調査を行い、同一画題の作品が同様の姿型を踏襲して制作されていることを確認することができた。また、時代の下がる合戦物語を絵画化した作品の中には、物語のストーリーを忘れ、粉本によって形のみ写される実例を確認することができた。

(6)東京国立博物館本館特別1・2室を会場として、特集「木挽町狩野家の記録と学習」を開催(2020年2月9日~3月21日)し、東京国立博物館所蔵の狩野派模本を中心に、関係資料を加えて展示を行なった。展示に合わせて、奥絵師の仕事と絵画制作に関して一般向けに紹介した8ページの解説リーフレットを作成した。

(7)木挽町狩野家9代目当主狩野晴川院養信が記した東博所蔵『公用記』・『勤仕日記』・『公用日記』・『公用扣』等55点の撮影を行い、東博研究情報アーカイブズのデジタルライブラリーに公開した。国立国会図書館所蔵の関連「狩野家記録」が本来これらと一括のものであったことを確認し、合わせて翻刻作業を進め、将来公開ができるように準備を行った。

(8)新型コロナウイルス感染対策のため木挽町狩野家伝来模本に該当する模本類の資料撮影と調査作業が制限されたが、調査撮影作品全体の総計は1676件となり、それらの内容をデータ化してまとめる作業を行った。撮影画像は、順次コルベース(Colbase 国立博物館所蔵品統合検索システム)において公開されることとなった。付属品や模本に書き込まれた、あるいは添えられた作品情報は、将来データベースとしての公開に対応できるように項目設定が行われ、整理作業が行われた。

(9)木挽町狩野家伝来模本以外を含む模本類全体を再検討することで、明治期においても博物館における模本の重要性の認識が時代によって変わっていったこと、どのようなものとして活用され整理されていったかを確認することができた。

明治初期のウイーン万国博覧会準備のための博覧会事務局時代や、殖産興業政策の盛んな時期には、輸出用の美術工芸品の「図案集」として利用され、明治22年帝国博物館となったのちには、描かれている主題による博物館資料として活用され、さらに明治33年東京帝室博物館と改称してからは、原本筆者を重視した美術史資料として分類がなされている。博物館に課せられた使命と資料活用に密接な関連のあることが明らかとなった。

(10)東京藝術大学大学美術館に収蔵される狩野派による模本の中に東博所蔵の木挽町狩野派模本と本来一緒に伝来した模本が含まれていることを推測させる資料が確認された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計34件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 田沢裕賀	4. 巻 -
2. 論文標題 アーカイヴとしての狩野派模本	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 コレクションとアーカイヴ 東アジア美術研究の可能性（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 421-427
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚本磨充	4. 巻 2021（8）
2. 論文標題 千年宝蔵、多元歴史 東京国立博物館の中国書画收藏和其故事	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 書と画	6. 最初と最後の頁 16-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚本磨充	4. 巻 -
2. 論文標題 世界のなかの関西中国書画コレクション そのグローバル・コンテキストとローカル・ネットワーク	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 関西中国書画コレクション研究会設立10周年記念 国際シンポジウム報告書 中国書画の時空	6. 最初と最後の頁 9-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 畑靖紀	4. 巻 271
2. 論文標題 耕織図の受容と展開 足利将軍家の梁楷の画卷を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 117-127
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福土雄也	4. 巻 -
2. 論文標題 狩野家による極書の発給	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 仏師と絵師 日本・東洋美術の制作者たち (思文閣出版)	6. 最初と最後の頁 317-360
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金井裕子	4. 巻 58
2. 論文標題 東京国立博物館所蔵「木挽町狩野家伝来資料」について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京国立博物館紀要	6. 最初と最後の頁 9-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚本鷹充	4. 巻 33
2. 論文標題 江戸時代の中国絵画收藏与流通 -近代中国学的橋梁	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 漢学研究	6. 最初と最後の頁 419-444
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 畑靖紀	4. 巻 第1505号
2. 論文標題 「夏珪の瀟湘八景図と室町水墨画 東山御物の規範性に関する試論」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『国華』	6. 最初と最後の頁 5-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚本鷹充	4. 巻 第246号
2. 論文標題 「「環境」としての中国絵画コレクション 「夏秋冬山水図」(金地院、久遠寺)におけるテキストの不在と自然観の相互作用」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『アジア遊学』	6. 最初と最後の頁 31-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚本鷹充	4. 巻 84号
2. 論文標題 「江戸時代の中国絵画コレクション 近代・中国美術学への懸け橋」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『SGRAレポート』第11回SGRA チャイナ・フォーラム 東アジアからみた中国美術史学	6. 最初と最後の頁 6-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五十嵐公一	4. 巻 23
2. 論文標題 「鶴澤家歴代当主の書状 真砂家資料翻刻」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『芸術文化研究(大阪芸術大学大学院芸術研究科)』	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下善也	4. 巻 -
2. 論文標題 「大倉集古館の近世日本絵画」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『特別展 オークラコレクション 図録』(九州国立博物館編)	6. 最初と最後の頁 10-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森道彦	4. 巻 第34号別冊
2. 論文標題 「室町時代における花鳥画制作と写生の機能について 初期狩野派「鳥類図巻」(京都国立博物館)を中心に」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『鹿島美術財団研究』年報	6. 最初と最後の頁 267-279
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件(うち招待講演 2件/うち国際学会 3件)

1. 発表者名 塚本鷹充
2. 発表標題 “古物”與“聖像”之間：狩野派摸本所見中國佛教繪畫的記錄、鑑定、修復
3. 学会等名 第六屆「東亞文獻與文學中的佛教世界」學術研討會「東亞佛教藝術史」分場(オンライン) 中央研究院
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 塚本鷹充
2. 発表標題 日本の宋畫保存：改型與再創造 兼論多元中國繪畫史的構想 (中文)
3. 学会等名 名家講座：歷史學與當代世界的挑戰 2022年11月14日 國立政治大學歷史系
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 塚本鷹充
2. 発表標題 十九世紀江戸狩野派對中國佛畫的新認知—鑑定、修復、模写(中文)
3. 学会等名 跨越与超越藝術史与博物館学檢討会 上海博物館
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 塚本鷹充
2. 発表標題 近代「日本畫」所見的「中國畫」
3. 学会等名 「山川巨構」講座系列
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 畑靖紀
2. 発表標題 東アジア絵画と文化交流
3. 学会等名 国際ワークショップ「東亜絵画策展人経験分享工作坊」、国立故宮博物院・台湾（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 畑靖紀
2. 発表標題 室町仏画研究の現在 課題と展望
3. 学会等名 雪舟研究会シンポジウム「室町水墨画における中国道釈画の受容」、山口県立美術館
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 畑靖紀
2. 発表標題 Discussant, 'Panel 5: Moving Objects, Styles, and Meanings,' International Online Symposium "Beyond the Southern Barbarians: Repositioning Japan in the First Global Age,"
3. 学会等名 Kyushu University's Faculty of Humanities and Yale University's Council on East Asian Studies, Online
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大橋美織
2. 発表標題 東京国立博物館所蔵 木挽町狩野家模本について
3. 学会等名 狩野派與中國 / 台日聯合工作坊 (台湾中央研究院) (招待講演) (國際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 塚本鷹充
2. 発表標題 「江戸時代が見た中国絵画 - 多様な中国絵画史の共生 - 」
3. 学会等名 水曜講演会 出光美術館
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 塚本鷹充
2. 発表標題 「日本中國繪畫の四種目録：中國繪畫知識の文字表達和普及化的幾個問題」
3. 学会等名 明清研究國際學術研討會 中央研究院
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 塚本鷹充
2. 発表標題 「木挽町狩野家與清宮畫家の模本制作」
3. 学会等名 狩野派與中國 / 台日聯合工作坊 (台湾中央研究院)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計14件

1. 著者名 五十嵐公一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 265
3. 書名 裁かれた絵師たち 近世初期京都画壇の裏事情	

1. 著者名 畑靖紀	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央公論美術出版	5. 総ページ数 568
3. 書名 室町水墨画論集	

1. 著者名 板倉聖哲編、塚本麿充	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中央公論美術出版	5. 総ページ数 38
3. 書名 アジア仏教美術論集 東アジア、「無準師範と弟子たちの文物ネットワーク 墨蹟・頂相・拓本の流通」	

1. 著者名 都留文科大学編、加藤弘子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 18
3. 書名 大学的富士山ガイド、「描かれた富士山 藝術の源泉」	

1. 著者名 並木誠士（共著）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 255
3. 書名 『江戸の美術 大図鑑』	

1. 著者名 並木誠士（編著）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 163
3. 書名 『日本絵画の転換点『酒飯論絵巻』：「絵巻」の時代から「風俗画」の時代へ』	

1. 著者名 五十嵐公一（共著）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 244
3. 書名 『天皇の美術史 5 朝廷権威の復興と京都画壇：江戸時代後期』	

1. 著者名 五十嵐公一	4. 発行年 2017年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 260
3. 書名 『天皇の美術史 4 雅の近世、花開く宮廷絵画：江戸時代前期』	

1. 著者名 森道彦（共著）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 渡辺美術館	5. 総ページ数 32
3. 書名 『公益財団法人 渡辺美術館所蔵品調査報告書（第四回） 狩野派絵画 附 吉村孝敬・森周峯』	

1. 著者名 瀬谷愛（共著・北区飛鳥山博物館編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京都北区教育委員会	5. 総ページ数 107
3. 書名 徳川家光と王子神社縁起絵巻	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>木挽町狩野家の記録と学習 https://www.tnm.jp/modules/r_free_page/index.php?id=2075 <1089ブログ> 模本たちの果たした役割 https://www.tnm.jp/modules/rblog/index.php/1/2021/02/16/kobiki_chokanouke-1/ <1089ブログ> 「奥絵師（おくえし）」の仕事と門人教育 https://www.tnm.jp/modules/rblog/index.php/1/2021/03/04/kobiki_chokanouke-2/</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松嶋 雅人 (MATSUSHIMA Masato) (10321548)	独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部・課長 (82619)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	瀬谷 愛 (Seya Ai) (50555133)	独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部・室長 (82619)	
研究分担者	大橋 美織 (OHASHI Miori) (10584477)	独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部・研究員 (82619)	
研究分担者	土屋 貴裕 (Tsuchiya Takahiro) (40509163)	独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部・室長 (82619)	
研究分担者	金井 裕子 (KANAI Hiroko) (10443623)	独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部・主任研究員 (82619)	
研究分担者	福士 雄也 (Fukushi Yuya) (50747334)	独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館・学芸部保存修理指導室・主任研究員 (84301)	
研究分担者	山下 善也 (YAMASHITA Yoshiya) (40463252)	独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館・学芸部文化財課・主任研究員 (87106)	2019年度まで研究分担者
研究分担者	畑 靖紀 (HATA Yasunori) (80302066)	独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館・学芸部文化財課・主任研究員 (87106)	
研究分担者	塚本 磨充 (TSUKAMOTO MAROMITSU) (00416265)	東京大学・東洋文化研究所・教授 (12601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鎌田 純子 (Kamata Jyunko) (60390746)	帝京大学・文学部・准教授 (32643)	
研究分担者	加藤 弘子 (KATO HIROKO) (70600063)	都留文科大学・文学部・非常勤講師 (23501)	
研究分担者	安藤 香織 (Ando Kaori) (20555031)	公益財団法人徳川黎明会・徳川美術館・学芸員 (72623)	
研究分担者	山本 英男 (yamamoto hideo) (10200833)	嵯峨美術短期大学・その他部局等・教授 (44313)	
研究分担者	彬子女王 (Princess Akiko) (20571889)	京都産業大学・日本文化研究所・研究員 (34304)	
研究分担者	並木 誠士 (NAMIKI Tatsuya) (50211446)	京都工芸繊維大学・美術工芸資料館・特定教授 (14303)	
研究分担者	五十嵐 公一 (Igarashi Koichi) (50769982)	大阪芸術大学・芸術学部・教授 (34405)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------